



皆さんこんにちは。新任の先生の「すゝめ」(意味は違う)集4選たちです。長い年月にもマケズ生き残ってきた本達ですので、[愛し]てくださるとうれしいです。 R1. 07.05 発行

風姿花伝



風姿花伝

作：世阿弥（市村宏 全訳注）「工夫と手腕を極めた役者こそ花を極めたというべきであろう」猿楽の大成者である世阿弥。彼が残した言葉は、人間相手のパフォーマンスの指南書として今も尚、輝いています。「芸の境地」や「花」という観点を身につけることで、これからのプレゼンにも活用できるはず。ぜひ読んでみてください。 国語・一貫職員室 中原先生

小川洋子



博士の愛した数式

新潮社

博士の愛した数学

作：小川洋子
タイトルを見た時数学関係の本だと思い、最初は興味を持っていませんでした。その後、映画のCMを見て自分の想像していたものと違い面白そうなストーリーだったので原作を読みました。
80分しか記憶をもたない博士がコミュニケーションに用いる数式の美しさを感じてください。
理科・第1職員室 大久保先生

広瀬 隆

Hirose Takashi

ロシア革命史入門

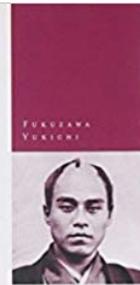
インターナショナル新書 007

ロシア革命入門

作：広瀬隆
第一次世界大戦まっただ中に発生し、「左翼的な革命」ととらえられているロシア革命の本当の目的は何だったのか？
また、革命を経て成立したソ連はなぜ独裁国家へと変貌したのか？ 革命の主人公レーニンらを取り巻く人間模様などを描きつつ、革命の全貌と真実に迫る一冊。

世界史受講者はぜひ！
社会・一貫職員室 小川先生

福澤諭吉 学問のすゝめ



慶應義塾大学出版会

学問のすゝめ

作：福澤諭吉
「なぜ勉強しないといけないのか」という根本的な疑問を解決するために『学問のすゝめ』を読みました。この本を読むと「学ぶ」ことの大切さがよく分かります。
学生として学問を志す意欲を喚起するだけでなく、日本の近代化に大きく貢献した福澤諭吉の思想に触れることができるので『おすすすめ』です。
英語・一貫職員室 門脇先生